

村民意向調査 問3の集計分析について

松尾 真

◆ 「村民意向調査」の問3（困っていること）について、集計・分析した。

方法は、

- イ. 自由記述の文章を読み、その内容を「住宅修復資金」、「農地」、「生活資金」等のキーワードに要約した。
- ロ. キーワードがまだ多すぎるきらいがあり、もう少しキーワードを絞る方がいいかとも思われる。が、あまり抽象的なキーワードにしてしまうと、生々しい現実から乖離してしまう危険もある。現在のキーワードでひとまずの分析は可能だと考える。
- ハ. 各集落の回答数（回答人数ではなく、回答キーワード数）を集計
- ニ. 各キーワードの回答数を集計

◆ 目立つ問題

- イ. 「住宅」の修復・再建に関わる問題（その資金確保の問題を含む） 65件
 ＊加えて、「村営住宅」が7件ある
 → 住宅被害状況の再調査、住宅現況の調査が必要
- ロ. 「作業所」関係 10件
 → 作業所なくして農家は成り立たない。作業所再建の支援を検討する必要がある
- ハ. 「農地」（復旧の見通し等） 17件
- ニ. 「道路」 25件 ＊貝回坂改良、秋山へのアクセス路の問題を含む
 他に「国道振動」が3件ある
- ホ. 「地盤」（石垣損壊等も含む） 9件
 → いくつかの集落に集中。そういう集落での調査が必要
- ヘ. 「生活資金」が底をついた等 17件
 → 非常に驚いた項目。現状把握が必要。どのような対処策がありうるか。
- ト. 「仕事」（就労先等） 15件
 → 収入源を絶たれた人の問題と、若者定住に関わる問題とに大別されるであろう
- チ. 「医療・保健」 19件 ＊医師確保の心配が目立つ
 → 非常に多いという印象。診療所のこれからについて村の明確な方針形成、村民への

政策メッセージが必要

- リ. 「雪」に関わるもの 18 件
 - 調査時期が1月だったことが影響しているが、現在の村の制度で十分ではないことを示している。復興計画の中で「雪」問題をきちんと検討することが必要
- ヌ. 「公民館」 8 件 *避難所問題を含む
 - * 森集落で件数が多かったが、新公民館建設の展望についての集落内での広報が不足しているのではないだろうか
- ル. 「集落維持」 28 件
 - 比較的大きな集落のケースと、世帯数が1桁台になっている集落のケースとを分けて対策を考えることが必要だろう
- ヲ. 「普請」が維持できるか 19 件
 - ルの項と同じことがいえる
 - 今春のボランティア支援が必要な集落もあり、これは即対応すべき
- リ. 「客減少」 商店の客と観光客（秋山） 9 件
 - 森商店街については、ただ店舗を再建すればいいという問題ではない。カの「交通」問題と重ね、森に買い物に行く手段などソフト面を併せて検討することが必要
 - 秋山の観光客減少の訴えについては、「震災による風評被害」が主因なのか、他の要因があるのか、よく調査・検討することが必要
- カ. 「交通」 19 件 *主に公共交通の確保、デマンドバスへの不満・批判
 - 非常に深刻な状況
 - 「復興計画」の「道路ネットワーク」を、ハードとソフト（公共交通システム）の両面で検討することが必要
- コ. 「不安」 9 件 *内容は多様だが、「不安」という言葉が出てくることに注目
- ク. 件数としては少ないが、「仮設住宅を優遇し過ぎている」、「仮設への反目が感じられ、やりにくい」という意見は重視する必要がある。

◆ 集落別の特徴

- ・ 特に被害がひどい集落以外で、平滝、月岡、野田沢、志久見のキーワード集計数が多いことが目立つ
 - 平滝で特に目立つことは、「集落維持」と「普請」への不安。大きな集落だけに意外感がある。しかし、祭りの維持が困難化していると聞いたこともあり、その意味では納

得できる。世帯数の変化や高齢化、若者の集落外就労等の状況変化に対応する集落運営（普請を含む）の工夫の不足が背景にあるのではないかと推察される。

実際に集落に出向いて、聞き取り調査、懇談等を行うことが必要だろう。

○ 月岡は、「人が出て行った」、「集落維持が困難」という類の声が目立つ。

集落関係者に少し聞いてみたところ、月岡集落は大きく2つの地区、月岡地区と大巻地区に分かれるが、月岡地区が数年前から戸数減少していて、震災がそれに輪をかけたということのようだ。

いわゆるT型集落点検会を開催し、実情をしっかりと把握することからスタートするのがよいのではないかと思う。

○ 野田沢もいろいろと課題があるように思われるが、「貝回坂の改良」を挙げた人が4～5人いたことが件数を増やしている。「貝回坂改良」の要望内容をきちんと把握することが大事。

○ 志久見の件数が多いことには注目・注意すべきものがある。「住宅」である。おそらく志久見には「一部損壊」と判定されたものが多いのではないかと思われるのだが、それがいざ暮らすとなると困った箇所がたくさんあり、修復するにはかなりの費用を要することから、件数が多くなっているのではないかと思われる。

「住宅被害」の問題を考えるうえで重視すべき1つのポイントが顕在化しているものとして重視する必要があると考える。

・ 坪野集落の怒りは深い。

坪野集落が3・12以降、「見捨てられてきた」現実を直視し、きちんとした対話の関係を築くことが必要。

集落側にまったく問題がなかったとはいえないかもしれないが、役場がかくも無対応であったのは何故なのか、検証することが必要である。